Ça va? ⊆⊇⊆⊇⊆ T&K シンガーズ 2014 コンサート ⊇⊆⊇⊆⊇Junko Higasa

2014 年 5 月 17 日（土）―毎年 5 月第三土曜日開催の T&K シンガーズのコンサートへ出かけた。昨年はマイケル・ジャクソンの曲を含んだ 1980 年代ポップスのプログラムだったが、今年はクラシックとポップスの融合だった。

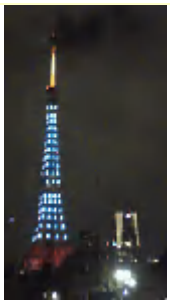
第一部はガーシュインの曲～前田憲男氏編曲ラプソディ・イン・ブルー、チャイコフスキー「ピアノ協奏曲第 1 番変ロ短調」→TONIGHT WE LOVE、バッハ「“アンナ・マクダレーナのためのクラヴィーア小曲集”よりメヌエット」→A LOVER'S CONCERT、ショパン「幻想即興曲」→I'M ALWAYS CHASIN' RAINBOWS、ベートーヴェン「エリーゼのために」→キッスは目にして！～情熱の花。

第二部はベートーヴェン「田園」＋「春が来た」「森の水車」＝村の田園交響楽、ロンドンデリーの歌～DANNY BOY、モーツァルト「アイネ・クライネ・ナハト・ムジーク」→前田憲男氏作詞・編曲「愛のセレナーデ（ストーカーの歌でした)」 ナポリ民謡「オー・ソレ・ミオ」→プレスリーの IT'S NOW OR NEVER―まさに（今でしょ！）フォスターの「故郷の人々」ロック版、ボロディン「ダッタン人の踊り」→STRANGER IN PARADISE、プリエート「ラ・ノヴィア」 ホルスト「JUPITER」

プログラムは以上であったが「クラシックの原曲がこうなります」という対比演奏がよかった。ここは毎回変わる構成がよく、まず飽きが来ない。そしてトークの内容と長さ、間の開け方も抜群だ。今回はピアニスト二人のインタヴューもあった。袴塚淳氏「ピアニストが最初の挫折を味わう“エリーゼのために”」の話。椅子とテーブルを設えて「徹子の部屋」風にまとめた広森アケミ氏の楽団レッスンの話。広森氏はこの楽団と 10 年ほど前からの付き合いだそうだが、普段の練習の大変さを話された。

まずこの楽団のソプラノ、メゾ・ソプラノ、テノール、バスという声域の中で、それらが更に 4 段階以上に分かれるということで、パーツごとの練習では両手を目いっぱい使っても届かない、4 段譜以上を一遍に弾かなければならない。全体練習では音符なしのコードだけの譜面が渡される等、ピアニストの高度な腕も要求される。その話を聞いて、コーラスの微妙な段階差がある音の構成の原点が見えた。だからこのコーラス・グループは楽器同様の演奏が出来るのだと納得して感嘆した。

それから今回は私の苦手なベートーヴェンの曲が含まれていたが、その理由が実感できた。ベートーヴェンの音楽は小説で言うとノンフィクションの私小説。メロディー転換の武骨さも感じられる。すなわち現実的要素が濃いのだ。だから音楽に壮大な自然と夢のアーチを望み、地上の喜怒哀楽よりも精神的世界に飛びたい私は、人間の DNA に近いベートーヴェンよりも天上のモーツァルトを好むのだと納得した。



さて、最後の二曲。「ラ・ノビア」は宮川泰氏編曲、「JUPITER」は KANTA 氏編曲で、大いに盛り上がった。

そしてこの楽団は勧誘も巧い。映画同様、アンコール二曲は来年のコンサートの予告版。1 曲目の「レ・ミゼラブル」からの「夢やぶれて」は、トークにあった華原朋美さんよりも、むしろスーザン・ボイルさんを思い出してしまったが、来年も期待できそうだ。

今年も帰りに東京タワーを眺めたが、去年と今年では心に感じる光りの色が違う。色とりどりの音楽もまた楽しい。 (2014.5.18)

⊆⊇⊆⊇⊆⊇⊇⊆⊇⊆⊇⊆⊇⊆⊇⊇⊆⊇⊆⊇⊆⊇⊇⊆⊇ *Ça va, merci. Et toi?*